

算数

算数科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
数量や図形などについての基礎的・基本的な知識及び技能を習得すること。	目的に応じて必要な情報を取り出して解釈すること。

	児童・生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<p>ア 1位数と1位数との加法と、その逆の減法を苦手としている。</p> <p>イ 問題場面の数量の関係を捉え、式や場面の絵や図に表すことに課題がある。</p>	<p>ア 加法と減法の計算の基礎を身に付けるために、ブロックやおはじきといった具体物や図を使って数の操作を繰り返し行い、数量の関係を捉える。</p> <p>イ 計算の意味や計算の仕方を考えたりすることができるように、場面の様子を視覚化し、実際に手を動かしながら具体物や図、ブロックを用いて考える活動を行う。</p>	<p>ア 5月～7月</p> <p>イ 5月～</p>	<p>ア ブロックなどの具体物を使った計算方法を徹底し、筆算で位取りを意識させることにより、計算方法の理解を身に付けることができた。</p> <p>イ ブロックなどの具体物を操作することにより、加法や減法の場面をイメージし、式に表すことができるようになった。</p>
第2学年	<p>ア 乗法の意味を理解して計算することや、かけ算九九を定着することが苦手としている。</p> <p>イ 問題場面の数量の関係を捉え、式やテープ図に表すことに課題がある。</p>	<p>ア 乗法が用いられる場面を捉えられるように、ブロックや図を使って数の操作を繰り返し行う。</p> <p>イ 計算の意味や計算の仕方を考えたりすることができるように、場面の様子を視覚化し、実際に手を動かしながら具体物や図、ブロックを用いて考える活動を行う。</p>	<p>ア 10月～</p> <p>イ 年間を通して</p>	<p>ア 具体物操作や図を書いて、説明し合う活動を通して、乗法が用いられる場面を理解することができた。</p> <p>イ ブロックや数カードでの操作を繰り返し行うことで、計算の意味や仕方の理解に繋がった。</p>
第3学年	<p>ア わり算の意味(等分除・包含除)を理解して、計算することを苦手としている。</p> <p>イ 問題場面の数量の関係を捉え、式や線分図・テープ図に表すことに課題がある。</p>	<p>ア 具体的な場面を通してわり算の意味を捉えられるように、具体物や図を使って数の操作を繰り返し行う。</p> <p>イ 問題場面から分かっていることや問われていることを捉えたり、必要な情報を取り出して考えたりできるように、具体物や図、テープ図を用いて可視化しながら考える活動を繰り返し行う。</p>	<p>ア 5月～</p> <p>イ 年間を通して</p>	<p>ア 具体物の操作や図を使って説明し合う活動を通して、わり算の意味を理解することができた。</p> <p>イ 具体物や図、テープ等を用いることで、問題場面の理解に繋がり、立式や問題理解を適切に行うことができるようになった。</p>
第4学年	<p>ア わる数が1位数や2位数で、わられる数が2位数や3位数の場合の計算を苦手としている。(わり算の筆算)</p> <p>イ 問題場面の数量の関係を捉え、式や線分図に表すことに課題がある。</p>	<p>ア 除法の計算が確実に身に付けられるように、授業の始めに復習問題に取り組む。課題が終わった児童からミライシードやプリントに取り組み、習熟を図る。</p> <p>イ 問題場面から分かっていることや問われていることを捉えたり、必要な情報を取り出して考えたりできるように、式や線分図を用いて可視化しながら考える活動を繰り返し行う。</p>	<p>ア 5月～</p> <p>イ 年間を通して</p>	<p>ア プリントなどで繰り返し計算を解いたり、四則計算に触れる機会を増やしたりすることで計算の正答率が高くなった。</p> <p>イ 問題場面から、何が問われているのか丁寧にやってきた。式、線分図や図に表すことができるようになった。</p>

<p>第5学年</p>	<p>ア 小数の乗法及び除法の計算を苦手としている。</p> <p>イ 問題場面の数量の関係を捉え、式や2本の数直線に表すことに課題がある。</p>	<p>ア 小数の乗法及び除法の計算ができるように、整数の場合と同じ関係や法則が成り立っていることを生かしながら、小数の乗法及び除法の計算を繰り返し行う。</p> <p>イ 問題場面から分かっていることや問われていることを捉えたり、必要な情報を取り出して考えたりできるように、式や数直線、線分図を用いて可視化しながら考える活動を繰り返し行う。</p>	<p>ア 6月～</p> <p>イ 年間を通して</p>	<p>ア 年間を通してベーシックタイムやミライシードを活用した。年度末には、小数の乗法及び除法の計算を重点的に復習したことで、少しずつ定着してきた。</p> <p>イ 問題文を読み、分かっていること問われていることに下線を引いて捉えた。数直線図を用いて関係性を表したことで、自信をもって立式できる児童が増えた。</p>
<p>第6学年</p>	<p>ア 分数の乗法や除法の計算をすることや、図形の体積を求めることを苦手としている。</p> <p>イ 問題場面の数量の関係を捉え、式や2本の数直線に表すことに課題がある。</p>	<p>ア 分数の乗法や除法の計算の仕方が理解できるように、整数の乗法及び除法から、小数の乗法及び除法へと拡張された乗数や除数の意味を適用できるようにする。</p> <p>図形の体積を求めることができるように、第5学年で学習した立方体、直方体の場合の体積の求め方を基にして、角柱及び円柱の体積も計算によって求められることを理解できるようにする。</p> <p>イ 問題場面から分かっていることや問われていることを捉えたり、必要な情報を取り出して考えたりできるように、式や数直線、線分図を用いて可視化しながら考える活動を繰り返し行う。</p>	<p>ア 5月～</p> <p>イ 年間を通して</p>	<p>ア 小数の乗法、除法から、分数の乗法、除法の計算の仕方につなげて指導した。計算の仕方を理解できるようになったが、期間が空くと計算の方法を忘れてしまう児童がいた。</p> <p>イ 問題場面の数量関係を繰り返し数直線に表す練習をし、整理できる児童が増えた。</p>

<p>■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について</p>	<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p>
<p>低学年 ・一人1台端末を活用し、大型モニターで数の概念を視覚化して共有する。【協働的】 ・教科書のデジタルコンテンツ(QRコード)を活用して練習問題を行い、習熟を図る。【個別最適】</p> <p>中学年 ・一人1台端末や大型モニターを活用し、児童の考えなどを提示し、考えた過程をみんなで共有する。【協働的】 ・具体物や一人1台端末を操作して、数量の関係を可視化する。【個別最適】</p> <p>高学年 ・一人1台端末を活用して、自分や友達の考えを比較し、共通点や相違点を話し合い、自分の考えを深める。【協働的】 ・図形の学習で自分なりの解決方法を一人1台端末や具体物、図などから選択する。【個別最適】</p>	<p>【全学年】 「問題の把握⇒めあて⇒自分の考え⇒みんなの考え⇒まとめ⇒練習問題⇒振り返り」の流れを統一し、毎時間同じ展開をする。</p> <p>【1～2年】 授業の最後に何を学んだかを発表したり、ノートに書いたりする。</p> <p>【3～6年】 単元ごとに、学んだことを文章に表現することを通して、既習した内容を振り返る。</p>

